



平成18年度(1)研修会報告

8月25日佐世保市の公民館にて、平成18年度の第1回研修会を開催しました。

今回の研修会は、総会において協議した地方における「ミニ研修会」としての第1回目の研修会です。

会の開催に当っては、佐世保地区在住の平原宏志副会長を始め皆様のご協力により立派な研修会となりました。会には長崎や島原地区よりも参加して頂き21名と多くの出席での研修会となり、関係者及び参加者に感謝します。研修会後に懇親会を開催し情報交換など有意義な一時を過ごしました。

この研修会を機会に、各地区の活動が活発化することを期待しています。

今後は、定期的な開催となるように年間の計画を組んで行きたいと考えています。

尚、次回は佐世保地区に引き続き「島原地区等」で開催を計画したいと考えています。

時期は、平成19年1月に計画します。島原等での開催に当っては、開催地区の会員の皆様が世話役となっただき実施したいと思っておりますので、ご協力をお願い致します。

以下に、平原宏志副会長に研修会の報告を御願いました。

佐世保地区ミニ研修会報告

長崎県技術士会副会長 平原 宏志 (総監・建設)
標記の「地区研修会」は役員会で決定したように、2名の講師を招き最新の技術について、会員の研修になるものを選定しました。これには、CPDの案内の通り、会員以外の技術者として城野清治氏(株)海洋開発技術研究所代表取締役社長)をお招きして「水の流れと技術開発」という講演を行って頂きました。

この中で、造船技術者の集団で企業を設立したこと、そしてその開発した技術を売り込むことの困難さを痛切に感じたことと述べられていました。技術開発とその技術が受け入れられることとは別物と感じました。

これを通して技術者もプレゼンテーション能力を必要とするということがわかりました。城野先生の開発したものの一つに、ダム・湖沼用アオコ対策水質改善装置があります。これにも造船技術が使われており、ダムの水面に発生しているアオコを引き寄せプロペラにより底部へアオコを送り込み不活性化します。

この湖水の流動は「流水不腐」といって、動いている

水はアオコ発生や貧酸素問題は発生しません。

このような技術開発は技術士にも良い勉強となりました。この技術は、矢筈ダム(佐賀県西川登町)で行われており、武雄佐世保道路を通られる時に見ることができると話されていました。このように、研究開発が行われている方の話を聞くことは技術士にとって将来に大変役に立つと思えました。

次に、佐世保地区で長く技術士活動を行われている柏原公二郎先生(技術士:応用理学(株)昭和ボーリング 統括技術部長)の「アスベストの鉱物学的特徴と鑑定法」について報告します。

この講演は時宜に合った内容であると思えました。“アスベストとは”から始まり、アスベストの成因プロセスを細かく説明して頂きました。それも映像を交えて、応用理学部門である地質年代をふまえての説明はわかりやすく新鮮でした。

それから、アスベスト活用の歴史と特徴及び用途まで網羅して、いま“何が問題であるか”の科学的・物理学的性質を通して鉱物学的分類まで及びました。

このアスベストを的確に分類するための偏光顕微鏡の原理を、機材を交えてわかりやすく説明して、その偏光顕微鏡写真によりアスベスト3種(白石綿、青石綿、茶石綿)とガラス繊維の相違点、有効な分析方法を通してアスベストと人造繊維の違いを明確に説明して頂きました。これは、柏原先生が自ら偏光顕微鏡分析を行われたことにより説明できるものであり、すばらしい研究成果だと思えます。

以上が、講師の先生方と講演内容ですが、このあとの質疑応答も活発に行われました。この質疑応答は懇親会に引き継がれ、佐世保駅内の「日本海庄や」での2時間の懇親会は、“これもCPDにカウントして良いのじゃないか”という意見も出るように、技術的で和やかな懇親会となりました。

最後に、この研修会の世話役をはじめ、講師及び研修会参加者の方々にお礼を申し上げて、佐世保地区研修会の報告とさせていただきます。

平成 18 年度後半の研修会開催等について

年度後半の活動計画等について、役員会を開催しました（平成 18 年 10 月 5 日、於 NERC）ので、その会議内容についてご報告します。

1) 平成 18 年度テクニカルツアー開催について

本年度中に現地研修会を実施したく種々検討していますが、場所・費用・日程等を考慮した場合、現在の処、適当な候補地の選定が出来ていません。

ところで、「民衆のために生きた技術者たち」（文部科学大臣賞、経団連会長賞、その他受賞多数）という映画が、各地でフォーラムと合わせ上映されています。この映画は、明治から昭和にかけて日本にとって 1945 年の敗戦に至る苦難の時代に、それぞれ画期的土木事業に成果を挙げた、青山土、八田与一、宮本武之輔の偉大な土木技術者 3 名の伝記映画です。

各地での開催には、日本技術士会等も参加されている由です。出来れば、このようなフォーラムの開催が出来ないか等について検討して行きたいと思えます。

その他、会員の皆様でテクニカルツアーとして適した研修の場について、心当たりのある方は事務局までご一報下さい。

2) 第 2 回ミニ研修会について

今回は、長崎又は島原地区での開催とする。このための準備を今後進めて行きます。このため、皆様の要望、講師などの情報をお願いします。

3) 長崎県技術士会HPについて

本年 4 月に開設しましたが、会員による手作りのため、未だ十分な編集が出来てなく会員の皆様には、ご不便をかけています。

今後は、いつでも見ていただけるように更新して行きたいと考えています。そして、これが軌道に乗れば各自がHPへアクセスして頂き、機関紙、研修会、連絡事項等について、各自へのメール・郵送等での情報提供・送信でなく、会員の皆様が自主的に直接見て受信して貰うようにして行きたい。

5) 「長崎県年鑑」へ掲載について

中央人事通信社より発行されている年鑑に、技術士会会員肖像入り名簿を毎年掲載していましたが、個人情報保護との関係もあり、本年の総会で来年より掲載を取り止めることとしました。

しかし、来年度は各団体が掲載されているように半ページ程度に、長崎県技術士会の案内を掲載することも考えています。これには、会の組織の目的、事務局、役員名簿程度の掲載となります。

本件についてご意見がありましたら、ご一報下さい。

6) 社会基盤維持管理研究について

橋梁、道路等の社会資本の維持管理は今後重要となってきます。

長野県、青森県、山口県などでは、「アセットマネジメント」として実用化レベルまでになっている由です。長崎県においても、多くの社会資本があり今後はこれらの維持管理が課題と考えます。

青森県では、土木関連施設のみでなく、機械等も含んで研究して行くことを目的として取り組んでいるとのこと。

このような背景の下で、長崎県技術士会も技術集団として、今後研究を重ねて行き社会に貢献する機会を作ることが重要と考えます。そこで、会として今後どのような取り組みが出来るか、検討メンバー等について考えて行きたいと思えます。

会員の皆様へ、協力をお願いする際は宜しく願います。

6) NPO法人化について

長崎県技術士会は法人格がなく、業務委託受注などは出来ない組織となっています。

他の県では、NPO法人として組織し活動しているところがあります。

長崎県技術士会も、今後組織として具体的に活動するためには、法人化等について検討しておくことも、必要かと考えています。

7) 研修会に対する会員の要望について

会員の方から、研修会について次のような主旨のご意見を頂きました。「これまでは、自分の専門と縁遠いテーマが多いのですが、会員各位を対象に夫々の会員が、どういうテーマでレクチャーが出来るか、どういう研修を望んでおられるかについて、アンケートの実施をお願いしたい。会との関わりが殆どないので、接点が欲しい。宜しく願います。」

本件については、アンケートでの回答でなく、会員皆様のご意見を、事務局まで連絡いただくことにしました。今後の研修会に活かしてゆきたいと考えていますので、宜しく御願い致します。

8) 「建設フェア 2006」について

長崎県建設技術研究センター（NERC）主催により、10 月 24～25 日の期間、NERC（大村市）に於いて開催されます。これに、長崎県技術士会として後援しています。今後とも、各種行事に対してできるだけ後援・共催等を行ってゆきたい。

9) 九州支部の動きについて

来年、19 年度より九州技術士センターが廃止にな

